

令和2年6月9日

関係各位

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会  
理事長 小澤 俊朗

「#コロナ下の音楽文化を前に進めるプロジェクト」のお知らせ

全国の管打楽器演奏家・吹奏楽愛好家の皆様、そして、未来の音楽文化の担い手である青少年の皆様におかれましては、長引くコロナ禍の影響により歯がゆい日々をお過ごしのこととご推察いたします。

5月14日に全国39県が緊急事態宣言の解除、続く5月21日に近畿圏、さらに5月25日には全都道府県の緊急事態宣言が解除されました。6月に入り、各界においてもそれぞれ独自の対策を取りながら、少しずつではありますが活動再開の兆しをみせております。

そのような中、ヨーロッパをはじめとする諸外国のオーケストラ団体は、それぞれに検証ステップを重ねながら、コンサートを再開していることは、すでにメディア等で報道されております。また国内のプロフェッショナルオーケストラ団体においても、それぞれの対策のもとに活動を再開し、再び音楽が私たちのところへ戻ってくる蕾を感じ、胸が高鳴っております。

我が国では、感染防止と経済活動の両立に向け、各業界団体が主体となって感染防止ガイドラインを策定し実践するよう求められております。

つきましては、このたび一般社団法人日本管打・吹奏楽学会は、「#コロナ下の音楽文化を前に進めるプロジェクト」を一般社団法人日本クラシック音楽事業協会（入山功一会長）とともに立ち上げ、管弦打楽器の他、幅広い楽器の販売を行っている株式会社ヤマハミュージックジャパン、新型コロナウイルス感染症の取材や実験で医療・研究機関とのつながりなど実績を持つNHKに協力要請をいたしました。

その他、様々な分野の皆様にもご協力を仰ぎながら、医療的見地、科学的見地等鑑み、演奏活動再開の基準となるガイドラインを策定すべく検証を進めて参ります。

尚、この検証においてはNHKをはじめとするメディアを通じ、今後発信する予定でおります。

どのようにしたら仲間たちと合奏が出来るのか、音楽を愛するすべての皆様の音楽活動再開へ向けて、「正しくリスクをとらえる」ためのプロジェクトであり、今最も取り組むべきテーマとして、我が国の音楽文化が一日も早く、前に進むことを願うばかりでございます。